

三者三様 惑星の季節

この春は、西空に木星、東空に火星と土星が輝いていて、惑星を見るにはとても贅沢な状況になっています。

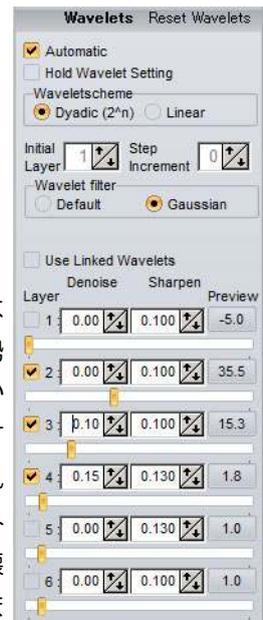
惑星を観察するには気流の安定する春が好適であるといわれていますが、中でもこの春は近年になく良シーイングに巡り合うことが多いと感じています。自分もともと眼がそれほど良くないので、他の人が望遠鏡を覗いて「〇〇のあたりがすごく見える！」と教えてくれても、同じものを見て、それほどに微細に見えると感じたことはありませんでした。しかしながら、この春は、気流が安定しているのででしょうか、火星でも木星でも、口径がひとまわり望遠鏡が大きくなったようにうじゃうじゃとディティールが見える夜に巡り合うことが多いように感じます。例えていうなら、急流の水底を眺めるのと、池の底を見るのとの違いと言いましょうか、ゆっくりと揺らめく惑星の円盤像はとてもきめ細かく観察ができます。当然、写真の方も大収穫で、C-MOS カメラで撮影した動画をレジスタックスで処理すると、さらに肉眼ではわからなかった細かな模様まで浮かび上がってきます。尤も、最近では、松阪市天文台の観望会の夜の余った時間に撮影するというとても手抜きなことをしているので、たまたまチャンスに当たっているのかもしれませんが。

撮影のシステムは、2014年3月に紹介したFS-152とASI120MCの組み合わせです。拡大レンズは、MEADEのプローゼル12.4mmでいい感じの拡大率を得ていて、言うことはありません。

ところで、動画をコンポジットする定番のレジスタックスですが、以前にも書いたようにウェーブレット処理のパラメータのいじりかた次第で淡泊な写真にもえげつない写真にもいかようにも変身させることができます。

その辺は、味付け次第といいたいでしょうか、素晴らしい写真を撮影し発表されている方々の設定がとても気になります。Webで検索しても、あまり決定的な設定方法の記載は見つけることができないし、皆さんどうしているのでしょうか。Facebookなどで、画像処理中のパソコン画面をアップされている方がみえますが、惑星の写り具合よりも、そこに写っている設定パラメータのほうが気になって、画面を凝視してしまいます。ちなみに私の場合は基本はこんな感じで、あとは素材の写真の状態で臨機に變化させています。

ということで、下の写真は火星、木星、土星の御三家勢ぞろいでありませう。いささか見飽きた写真ではありますが、私的にはそれぞれ、これまで撮影した惑星写真をみんなボツにするほどの破壊力があります。さて、どこまでいけるのでしょうか。



火星

木星

土星

メカが大好き DD-2 をオートガイダー対応にすること

天文台仲間の鄭さんから、ピクセンのDD-2 モータードライブに ST4 互換オートガイダー端子を取り付けるようリクエストがあり、コントローラーを預かりました。

こういう作業を気軽に請け負うのは、もともとの工作好きもさることながら、今まで見たことのない機械の中身を覗き見る絶好のチャンスだからにほかなりません。これは、子供時代にいろんな機械を分解して楽しんでいたころからの性なのかなあとと思います。

さて、その借りものを分解して、大まかな回路を把握したところで、(いや、やはり勉強になります) 実際の接続作業に取り掛かりました。

ST4 のオートガイダーは、赤経・赤緯の各スイッチのグランド(マイナス側)が共通になっています。大方の望遠鏡のリモコンは同じような仕組みになっているのですが、DD-2 はプラス側が共通になっていました。さてどうしたものか、Web

で検索すると、追加回路の作例も丁寧に紹介されていたので、時間もないところ、そのままコピーして工作し、写真のようにもとのケースの中にすべて収めて作業を完了しました。

でもスイッチの動作は確認したけど、オートガイダーに接続して動くかどうかは、神のみぞ知る。



Books & CDs 惑星／富田勲

去る5月5日に作曲家でシンセサイザー奏者としても著名な富田勲氏が亡くなりました。

富田氏は音楽の様々な分野で功績を残されていますが、その中でもアナログシンセサイザーを駆使して宇宙をテーマにした数々の作品を送り出し、異彩を放たれました。

そういった作品の中でも特に有名なのが、このホルストの「惑星」です。

当時、シンセサイザーはまだまだ未熟な楽器で、先駆的にウォルター・カーロスが、これまた有名なスイッチト・オン・バッハという作品を発表し、新潮流として注目されてはいましたが、安定性に難があつてとてもライブのような形で使えるものではなく、あくまで脇役の楽器でした。ましてや、当時は楽譜が打ち込めるようなシーケンサーもありません。そういった厳しい制約の中で、すべての音源をシンセサイザーで構成し、スクラッチでフルオーケストラを凌駕するような重厚な作品を

制作して送り出されました。

ということで、その「惑星」であります。手元にレコードはあっても、再生するプレイヤーがありません。最近、回帰現象でレコードプレイヤーが見直されて新機種が発売されてきていると聞きますが、わざわざ買うほどでもなし、さて、CD を買いなおしますか。若しくは TSUTAYA?



編集雑記

FaceBook などを閲覧すると、すごい解像度の惑星写真が次々と掲載されていて、そのテクニクに圧倒されてしまいます。そのような中、コメント欄で「シーイングが悪かったけどこんな写真

が撮れました云々」といったコメントがしばしば目につきます。謙遜しているというか言い訳しているというか、いやとても足下に及びませんが…

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com